

H.E. 2019年卒 地域マネジメントコース

## こんな学生時代を過ごしました

(実習、ゼミ、その他の活動なども含めつつ、どのような学生生活を過ごしたのかについて700~800字程度で記入してください。)

1~2年生の頃は「小倉活性化PJ実習」に所属し、グリーンバード小倉チームの活動やidea+の企画運営を中心に取り組んでいました。この時期は、とにかくまちに出て、多くの人と出会い、地域の方々や企業の皆さまに協力をいただきながら、“まちでやったらおもしろいこと”を形にする経験を重ねました。自分たちで企画を考え、実際にまちの現場で試行錯誤しながら実施していくプロセスは、失敗も学びも多く、座学が得意ではなかった私にとって、とても刺激的でまちに向き合う姿勢の原点になったと感じています。3年生からはチャレンジプロジェクトに参加し、北九州・若松でまちづくりに取り組むローカルベンチャー企業で活動しました。大学とは異なる実践の場で、店舗の立ち上げや運営、イベント企画など、地域に深く関わる業務に携わりました。店舗立ち上げは初めての経験で、分からないことだらけでしたが、周囲に相談しながら進める中で、自分の足で動き、人に頼りながら学ぶ姿勢が自然と身につきました。学生でありながら本格的な現場に関わらせていただいたことは、大きな自信と視野の広がりにつながりました。学生時代に出会った地域の方々とは今でも関係が続いており、気づけば10年近くお世話になっている方もいます。活動の中では叱咤激励を受けることも多くありましたが、その一つひとつが自分を成長させてくれたと感じています。振り返ると、まちに出て人と関わり、実践を重ねる中で、多くの方に育てていただいた学生生活でした。こうした経験は、今の私の価値観や仕事観の軸となり、まちと関わり続ける現在のキャリアにも確実に繋がっています。



入学してすぐ実施される「ラジオ実習」プログラム。すぐに、まちにでての活動で戸惑うことも多かったですが、仲間と助け合いながら、企画賞では1位を獲得しました！

## 卒業後こんなキャリアを歩んでいます

(地域創生学群を卒業して今までのキャリアについてご記入ください。将来のビジョンも含めていただいて良いです。500~600字程度)

卒業論文ではまちづくりをテーマに取り組みましたが、「まちづくりとは何か」という問いに明確な答えを持っていないまま卒業を迎えました。そこで、より多様な地域の姿を自分の目で見たいと考え、当時「アメリカで最も暮らしやすい街」と評価されていたオレゴン州ポートランドで約1年間生活しました。現地ではまちの文化や人々の価値観に触れながら、独学で身につけたウェブ制作のスキルを活かし、フリーランスとして仕事をしていました。帰国後は、改めて北九州を拠点にまちと関わりたいという思いから合同会社ポルトへ参画し、まちのブランディング事業の企画・ディレクションを中心に活動しています。大規模な都市開発から地域に根ざしたイベントの企画運営まで幅広い案件に携わり、さまざまな角度から「まちのあり方」を探っています。いまま「まちづくり」の明確な定義は持っていませんが、日々試行錯誤しながら、より楽しいまちをつくるためのアクションを積み重ねています。また、2025年6月には小倉堺町で43年続くバー「コットンダンサー」を事業承継しました。時代に合わせて変えていくべき部分がある一方で、まちの文化として守り、次世代へ継いでいく価値もあると感じています。これからも自ら行動し、多様な視点からまちに関わり続けることで、地域に新しい選択肢や楽しさを生み出す存在でありたいと考えています。



学生時代から、根本的な部分はあまり変わっていないのかもしれませんが、今も日々、多くの方々にサポートいただきながら活動しています。

## 現役生へのメッセージ

(現役学生に対してのメッセージをお願いします。200字程度)

まちに出て人と関わり、挑戦を重ねた経験は、卒業後のキャリアにも大きくつながりました。正解が分からなくても、一歩踏み出せば必ず学びがあります。地域の方々との出会いが視野を広げ、将来の可能性をつくってくれます。ぜひ、自分の興味に素直に、積極的に動いてみてください。私は、小倉の「コットンダンサー」にもいるので、気軽に遊びに来てくださいね！

(2025年11月26日執筆)